

2009年度・平成21年度
くずは青葉幼稚園／学校評価



2010年4月

学校法人山口学園
くずは青葉幼稚園

はじめに

幼稚園における学校評価については、平成14年4月に施行された幼稚園設置基準において、自己評価の実施とその結果の公表に努め、保護者等に対する情報提供を積極的に行うこととされた。既に本園ではこれを受け、既に平成15年度より教員全員の「自己評価」を実施し、教育水準の質の向上を図ってきたところである。また、同年10月1日より施行の「大阪府私立学校情報提供指針」により、HP等において積極的に情報公開を行ってきた。続いて平成19年6月に学校教育法、同年10月に学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられた。これを受け平成21年度より、新たに「自己評価並びに自己評価の公表」（平成20年度自己評価公表）に取り組み、**継続して平成22年度初めに平成21年度・自己評価を公開**することにより、私立幼稚園としての「学校評価」のねらいを達成できるよう努力研鑽に励むところである。

幼稚園（学校）評価の目的

本園において、これまで「選ばれる私立幼稚園」として、幼稚園案内や説明会さらに広報活動（HPの活用等）を通じて積極的に情報提供を行ってきた。そして「建学の精神」のもと本園の保育・教育活動を公の教育を担う学校として実践してきた。今後は、これまでの取り組みや反省を基に自らの理念や実践が独善的になることのないよう学校評価・自己評価の公開に取り組み、質の高い幼児教育が提供できるように努める。

学校評価に関する規定

学校評価については、学校教育法第42条（幼稚園については、第28条により準用）及び学校教育法施行規則第66条～第68条（幼稚園については、第39条により準用）により以下の項目を公開する。

- ・教職員による自己評価を行い、その結果を公表。
- ・学校関係者による評価を行うとともにその結果を公表するよう努める。
- ・自己評価の結果・学校関係者評価の結果を設置者（学校法人山口学園理事会）に報告。

自己評価結果の公開

1. 本園の教育目標並びに2009年度教育目標の設定について

本園は、幼児の「心身の成長」を促し、子ども達相互の「ふれあい」を大切にした教育環境を整えることが何よりも大切と考えている。そして、幼児がいるいるな生活体験を積み重ねることができるよう指導と援助を行い、「明るく伸び伸びした幼児の育成」を目指すことが教育目標である。幼稚園集団生活の中で、幼児期の「躰」を充分に行い、情緒の安定を図り、そして将来の社会の担い手となるよう、自主性と協調性をもった豊かな「個性の創造」を育むことに努力研鑽に努めている。「幼児の心身の成長発達を助長し明るく伸び伸びとした集団生活を行う」「幼児期の幅広い諸経験を通して自主性を培い、そして体得して表現し、さらに集中してやり遂げる」という幼児教育を目指している。

2009年度は、それぞれの学年において下記の教育目標を設定し保育に努めた。

年長学年（5歳児）

[学年の目標]

思いやりの気持ちをもって友だちと関わり、協力し合いながら何事にも精一杯取り組み、個々の力を発揮する。

[人間関係]

1期（4・5月） 自分から進んで友だちと関わり、自分の思いを伝え相手の思いに気付く。

2期（6～8月） 友だちの思いを受け止めながら関わりを深める。

相手の立場に立って物事を考え、思いやりや感謝の気持ちを持って人と関わろうとする。

3期（9～12月） 友だちと協力しながら自分たちで物事を進めたり、解決する力を身につける。

4期（1～3月） 自分たちが行ってきたことに自信を持ち、色々な人と関わる力へとつなげていく

[生活習慣]

1期（4・5月） 年長としての自覚を持ち、見通しを持って行動し、生活に必要な決まりを守る。人の話を注意して聞き、内容を理解する。

色々な人と進んで挨拶する。

2期（6～8月） 生活習慣を確立し、一つひとつ丁寧に行う。

自ら進んで身の回りの整理整頓を行い、清潔にする。

話の内容を理解した上で、その意図・思い等に気付くとともに自分で考えて行動しようとする。

3期（9～12月） 約束事に対する意識を高め、友だち同士で助け合って守る。

4期（1～3月） 自分たちで意識を持ち進んで行う。

[表現]

1期（4・5月） 色々な形をつくったり、表現する楽しさを味わう。

色々な楽器に興味を持ち、友だちと美しい音色を奏でる心地よさを感じる。

2期（6～8月） 多くの歌に触れ、気持ちを込めて歌う。

3期（9～12月） 自分のイメージを拡げ、工夫して作ることの楽しさを感じる。

4期（1～3月） 劇遊びを通して、役になりきることの楽しさを感じるとともに子ども達同士で自主的に表現遊びを進め、発展させようとする。

[環境]

植物の生長過程に関心を持ち、世話をする喜びを味わう。

季節の変化を感じ、その時の自然に関心を持つ。



[遊び]

- 1期（4・5月）** 集団遊びを通し、友だちとの関わりを深める。
 様々な遊びに興味を持ち、楽しんで取り組む。
 友だちと意見を出し合い遊ぶ。
- 2期（6～8月）** くり返し練習する事の大切さを感じ意欲的に取り組む。
- 3期（9～12月）** 目標に向かって精一杯取り組み、達成する喜びを味わう。
 友だちと応援する気持ちを持ち、教え合いが出来るようになる。
- 4期（1～3月）** 友だちと遊びやルールを決めて遊ぶ楽しさを知り、遊びを発展させる。
 遊びを通し、思いやりの気持ちを持ち、思いを伝えたり受け入れたりすることの大切さを感じる。

年中学年（4歳児）

[学年の目標]

友だちの気持ちに気付き、思いやりを持って関わるとともに色々な活動に意欲的に取り組む。

- 1期（4・5月）** 幼稚園生活の仕方がわかり出来ることを進んでしようとする。
 新しい友だちと進んで関わろうとし関わりを深める。
 自分のしたい遊びを見つけ十分に遊ぶ。
- 2期（6～8月）** 集団生活のきまりを守り、けじめをもって活動に参加する。
 自分の思いを教師や友だちに伝えようとする。
 友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
- 3期（9～10月）** 進んで身体を動かし、難しいことにも挑戦する気持ちを持つ。
 クラスの友だちと力を合わせて取り組むことの楽しさを味わう。
 自然に関心を持ち、遊びの中に取り入れようとする。
- 4期（11～12月）** 友だちの気持ちに気付き、思いやりを持ち感じたことや伝え合いながら関わろうとする。
 ルールを守って集団遊びを楽しむ。
 歳下の友だちに優しく関わり、自分の知っていることを教えようとする。
- 5期（1～3月）** 物語に親しみ、役になりきって表現する楽しさを味わう。
 友だちと力を合わせて活動に取り組み、最後までやり遂げる達成感を味わう。
 幼稚園生活を十分に楽しみ、進級に期待を持つ。

年少学年（3歳児）

[学年の目標]

基本的な生活習慣を身につけ、安定して幼稚園生活を過ごす中で自分を伸び伸びと表現し、友だちと遊ぶ楽しさを味わう。



- 1期（4・5月）** 幼稚園生活に慣れ、安定して過ごす。 教師や友だちに親しみを持つ
生活に必要な場所を知り、仕方や約束事を知る。
戸外での遊びを知り、興味を持つ。
- 2期（6～8月）** 幼稚園生活・活動を通してものを正しく使う。
水や泥、砂に触れて存分に遊び、閑職を楽しむ
身の回りの事を自分でしようとする。
好きな遊びを見つけ、教師や友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ。
自分のしたいこと、して欲しいことを言葉で伝える。
- 3期（9～10月）** 戸外で思いっきり身体を動かす心地よさを味わう。
友だちに興味を持ち、関わりながら遊びを楽しむ。
クラスの友だちと一つのことに取り組む楽しさを味わう。
教師と友だちに自分の思いを言葉で伝える。
- 4期（11～12月）** 自分の思いを言葉で伝え、友だちにも思いがあることに気付く。
簡単なルールのある遊びを知り、教師や友だちと一緒に楽しむ。
生活習慣を見直し、出来ることは丁寧に言い、出来ないことは意欲的に取り組む
友だちと言葉の遣り取りを楽しむ。 リズムに合わせて自由に表現する。
- 5期（1～3月）** 生活習慣を身につけ、自信を持って伸び伸びと行動する。
遊びを通して友だちの関わりを深め、思いを受け入れる。
一年を通して、経験してきたことを自信へとつなげ、進級に期待を持ち、意欲的に取り組む。
- [生活]** 基本的な生活習慣を知り、自分でしようとする。
- [人間関係]** 思いを伝え合うことで相手の気持ちに気付く。
教師や色々な友だちとの関わりを通して、安定した生活を送り思いやりや憧れの
気持ちを持つ。
- [遊び・表現]** 身体をつかって十分に遊ぶ。
いろいろな遊びに興味を持ち自分なりのイメージをさまざまな表現をして楽しむ

[各学年・年間カリキュラム略]

幼稚園全学年

[目標] 異年齢による教育活動を通して以下の教育目標を設定。

1. 異年齢の友達に親しみを持ち関わりを深め、友だちとの生活の中で自分らしさを発揮する。
2. いろいろなクラス、学年の友達や保育者との関わりを楽しむ。
3. すすんで関わりをもち、思いやりの気持ちを育む。

2.平成21年度に重点的に取り組んだ教育内容

建学の精神に基づく「教育方針」さらに平成21年度教育目標（教育指針）のもと継続して「異年齢児による活動」の充実に努めた。平成20年度以上に異年齢児同士で活動する教育日数を増加し、その内容を充実させた。また、評価項目に沿って自己点検自己評価を行い、教師自らが客観的に指導や子どもとの関わりを省みて本園教育内容の充実を目指した。

3.自己評価項目の内容と達成及び取組の状況

本園では、平成15年度より教員全員の「自己評価」を実施しているが、平成21年度においても継続してこれを実施した。以下にその「自己評価項目・評価の観点・評価の達成と取組状況」を公開する。

分	教員 自己評価項目		園長・主任自己評価項目		
	A	教育方針・指導計画	G	研 修	K
B	健 康	H	家庭との連携	L	保護者支援
C	学級経営	I	表 現	M	地域連携
D	環 境	J	安全・衛生・危機管理	N	財務管理（決算予算）
類	E	言 葉		O	安全管理
	F	人間関係		P	人事管理

教員自己評価

A.教育方針・指導計画

教育方針・指導計画	1	<p>園の教育方針（教育目標・09年度教育指針）を理解し、指導計画の「ねらい」や「内容」は幼稚園教育要領の精神を踏まえ本園の教育方針に従ったものになっているか。【評価の観点】本園の教育方針教育目標を理解し、それぞれの領域における考え方が指導計画に反映されている【評価基準】A～B.本園の教育方針・教育目標を理解し、その指導を行い、指導計画のねらいや内容が教育要領を踏まえ本園の教育方針に従ったものになっている。</p>
	2	<p>指導計画は、子どもの発達の姿に配慮したものとなっているか 【評価の観点】幼児期の特徴を理解し、子どもの興味・関心の赴くもの、また友だちとの関係について考慮している。また、担任教員だけでなくそれぞれの子どもを多面的にとらえる機会や話し合いの場を教員同士で設けている。 【評価基準】A～B.子どもの発達の姿に配慮した指導計画のもと全教員で多面的に捉えている。</p>

教育方針・指導計画	3	指導計画は評価・反省に基づき見直しを行っているか。 【評価の観点】作成した担任教師自らが評価・反省を定期的に行っている。指導案の反省記録は、何のために記載しているかを認識している。評価反省は教師と多面的に評価する機会を設けている。【評価基準】A～B．定期的・ほぼ毎日、指導計画の評価を行い、見直しをしている。
	4	個々の子どもの発達の様子、生活の様子について指導要録以外にも記録があり、子どもの発達状況、生活状況について話し合う機会が定期的または必要に応じて設けられているか。 【評価基準】A．個々の子どもの記録があり、それに基づいて話し合う機会を設けている。

B. 健康

健康	1	子どもがのびのびと行動し、充実感が味わえるよう工夫しているか 【評価の観点】子どもが安定感を持って行動できるよう教員との信頼関係が築けるよう心がけている。また園内において子どもが自分なりの遊びを見つけて楽しめる配慮や工夫がされている。 【評価基準】A～B．子どもがのびのびと活動し、充実感が味わえるように工夫している。
	2	子どもが進んで戸外での活動を楽しむ配慮や工夫がされているか 【評価の観点】子どもの目が自然と戸外に向くように、室内から戸外への動線が連続するようにしている。【評価基準】A．広い園庭を十分に活用し、配慮や工夫をしている。
	3	子どもが運動的な活動に限らず、様々な遊びの中で十分体を動かす事ができるよう援助や働きかけを行っている 【評価の観点】子どもがどんな遊びに興味・関心を持ち活動意欲が高まっているかを理解し、日々の保育が特定の活動に偏る事の無いように計画している。 【評価基準】A．十分体を動かす事ができるよう援助や働きかけを行っている。
	4	健康や安全な生活に対して必要な習慣や態度を身につけていけるよう工夫しているか 【評価の観点】遊びや食事の時間、生活のリズムを安定させ身につけていける指導を行っている。また、危険な場所や遊びに対して配慮や指導を行っている。【評価基準】A．工夫している。
	5	幼児の病気疾病、学校伝染病などその主な疾病について十分に認識と知識をもっているか。また研修や知識体得の努力はしているか 【評価基準】A．十分に理解、認識している。

C. 学級経営

学級経営	1	個々の子どもの心身の状況を把握したり、配慮しながら保育をしているか 【評価の観点】登園後や降園前に視診をして、子どもの心身の状況を把握している。アレルギー疾患などを把握していて、個別な配慮をしている。【評価基準】A．十分配慮している。
	2	指導計画（長期・短期）を振り返り、評価・反省を行うとともに、教師としての子どもへのかかわり方なども日々振り返り、明日の保育へ生かせるようにしているか 【評価基準】A～B．毎日振り返り、明日への保育に生かせるようにしている。
	3	保育室は、整理整頓が行き届き、安全に配慮した環境になっているか。 【評価の観点】何時も清潔な環境の中、子どもを迎えている。子どもの動線を考え安全に配慮した環境になっているか否か。【評価基準】A～B．毎日点検を行い、配慮した環境になっている。

D. 環境

環 境	1	<p>身近な環境に親しみ様々な事象に興味や関心が持てるように工夫がされているか 【評価の観点】園内の自然環境を整備し、子どもが植物に接する機会をつくっている。季節感のある素材を保育に活用したり、季節にあわせた室内環境を工夫している。子どもが光や風を感じられる工夫やそれらを保育に取り入れられている。【評価基準】A. 工夫している</p>
	2	<p>幼稚園全体の環境構成に十分配慮しているか【評価の観点】自分の保育室のみならずトイレ、遊戯室など全体の環境構成に留意している。園門付近や廊下など安全管理を含め子どもの生活の場として意識している。【評価基準】A. 十分工夫している</p>
	3	<p>子どもが自発的に活動したり遊べる環境が整備されているか 【評価の観点】子どもの発達段階に即した玩具や遊具、教具を用意している。子どもが素材や用具などを自由に自分で選んで遊べるように工夫している。子どもがじっくり遊べる時間を確保している。【評価基準】A～B. よく整備している。</p>
	4	<p>子どもの遊びや活動が発展するヒントとなる工夫や配慮がされているか 【評価の観点】子どもの遊びや活動の広がりや臨機応変に対処するよう心がけ、その日の子どもの活動の様子を振り返りながら、翌日の環境を整えている。【評価基準】A. 十分に配慮や工夫がされている。</p>

E. 言葉

言 葉	1	<p>子どもが自分の気持ちを自分なりに表現したとき、それを受け止めているか 【評価の観点】子どもの問いかけや話かけを後回しにせず、その場で対応している。またスキンシップなどを通して心情を読み取っている。【評価基準】A～B. 十分に受け止めている。</p>
	2	<p>子ども達自身が友だち同士で話し合えるように工夫されているか 【評価の観点】グループ活動や当番活動など子どもたちが自主的に進めていけるような機会を設けている。戸外遊びや自由遊びなどの時間を設けている。子どもたちで解決できそうな場合は、教員が答えを出してしまわないよう見守る姿勢を心がけている。【評価基準】A. 工夫している</p>
	3	<p>子ども自身が挨拶の意味を知り、進んで行えているか【評価の観点】教員が率先して挨拶をし親しい雰囲気をつくり、挨拶の大切さや意味を子どもたちに伝えている。【評価基準】A. 進んで行っている。</p>
	4	<p>絵本や紙芝居、素話などを時間や内容を考慮し、工夫して積極的に取り入れているか【評価の観点】子どもたちの興味のあるものに関連性がある絵本や紙芝居を用意している。行事や季節、また学年に応じたものを選んでいく。落ちついた、ゆったりした時間の中で、絵本や紙芝居、素話をする機会を設けている。【評価基準】A. 積極的に取り入れている</p>
	5	<p>毎日または定期的に教師と子ども達との会話の時間を設けているか【評価の観点】グループ活動や当番活動など子ども達が自主的に進めていけるような機会を設けている。戸外遊びや自由遊び等の時間を十分に設けている。【評価基準】A. 毎日または定期的に時間を設けている。</p>
	6	<p>生活や遊びの中から出てきた言葉やアイデアが保育に活かされているか【評価の観点】子ども達の話の中からでてきた疑問や発見を受け止めクラスで話し合ったり、実際に確かめたりしている。子ども達の発想や思いを基にしていく(例/描画・お話作り・劇遊び・リズム表現)等の活動につなげている。【評価基準】A. 十分に保育に活かされている。</p>

F. 人間関係

人間関係	1	子どもが自分で行動・活動することの充実感を味わえるような援助を行っているか 【評価の観点】子どもが不安になった時に、いつでも応じられるように教員が身近にいる。集団の中でも個々の子どもの気持ちや意図を汲み取る配慮をしている。子どもたちが自分で考え、自分で行動する機会を積極的に設けたり、それに対する援助を行っている。 【評価基準】A～B. 援助を行っている。
	2	保育の上で相手の思いや気持ちに気づいていけるような援助や機会を設けているか 【評価の観点】トラブルの場面では、危険のないよう配慮しながら子どもたち同士で解決できるように援助し、友だちに自分の思いを伝えようとしている子どもに対して、見守ったり必要な援助をしている。教員や友だち以外の色々な人を通して様々な事を知ったり考えたりする機会を設けている。異年齢児との交流の機会をしっかりと設けている。 【評価基準】A. 援助や機会を設けている。
	3	園生活における望ましい習慣や態度を身につけるための指導を行ったり機会を設けているか 【評価の観点】子どもたちが社会的ルールを身につけていくよう配慮している。当番活動を日常生活の中で行い、異年齢児との交流を行っている。友だちと協力したり、一緒に行う活動の機会を設けている。子どもが他者の気持ちに気づき、時には自分の要求を抑えるような援助や指導を行なっている。【評価基準】A. 指導を行い、機会を設けている。
	4	2008年度教育指針「異年齢保育」について園児と十分にかかわり、ねらいの達成に努めたか 【評価の観点】本園教育課程を理解し学級の園児以外にも多く関わった。異年齢児の存在を認識することから、段階的に園児に助言、指導したか【評価基準】A. 十分に助言、指導した。

G. 研 修

研 修	1	園内研修等で自己の課題や園全体の課題について定期的に見直しや評価をしあい、保育の質の向上に努めているか 【評価の観点】園長・主任をはじめとし、教員同士コミュニケーションをよくとり、他の教員の助言や保育技術を参考にしている。【評価基準】A. 自己の課題や園全体の課題について見直しや評価を行い、保育の質の向上に努めている。園内で「研究保育」を実施した。また、外部の研修会に積極的に参加した。
	2	教材の研究、題材の研究をその活動ごとにはまたは、定期的に行ったか。 【評価の観点】定期的に「教材」または「活動のための題材や素材など」についてその活用内容について研究したか。【評価基準】A～B. 「教材研究」を日頃より留意し保育に生かしている

	研修日時	研修内容	研修主宰者・参加者
1	2009年 8月18日	子どもを取り巻くアレルギーの現状と課題	枚方市教育委員会・食育推進プロジェクト事業
2	2009年 8月26日	子どもの成長と読みきかせ	枚方市教育委員会 / 年長学年主任1名
3	2009年 8月29日	幼稚園における発達障がいと遅れのある子どものための行事の取り組みについて	大阪医科大学LDセンター / 園長、主任他10名
4	2009年12月21日	10年経験者研修	(社)大阪府私立幼稚園連盟 / 主任
5	2010年 3月26日	大阪府私立幼稚園教育研究大会	大阪府私立幼稚園連盟 / 園長、主任他11名

H. 家庭との連携

家庭との連携	1	<p>子どもの様子や育ち・保育内容等を保護者にわかりやすく伝えるよう工夫しているか 【評価の観点】日常の様子などは電話などを活用している。けがや事故が起きた時は状況や原因などを細かく説明している。クラスや子どもの様子・成長などを「クラスだより」その他の文書で伝えている。保育参観等においても、保育内容をより理解してもらえるようにしている。 【評価基準】A～B. 十分工夫しているが、不十分な面もあったことを省みている。</p>
	2	<p>保護者の質問や意見を聞くなど情報交換をすることによって、幼稚園と家庭が子どもの望ましい発達を促すための生活について考えていけるような連携がとれているか。 【評価の観点】保護者の相談や質問には丁寧に対応し、個人面談で家庭での様子を聞いたり、園での様子を伝えるなど情報交換をしている。また、行事（運動会等）の感想・意見を聴いたりしている。 【評価基準】A～B. 情報交換が行われ、望ましい子どもの発達のために家庭との連携をとっているが、より連携をめざすべきであると省みた。</p>

I. 表現

表現	1	<p>子どもの表現しようとする意欲を受け止め、また子どもが様々な表現を楽しむ事ができるように配慮しているか 【評価の観点】子どもが生活の中で感じた美しいものや心を動かす出来事を教員が受け止め共感している。子どもたちの様々なイメージの表現に必要な素材や用具を工夫し、準備している。 【評価基準】A～B. 意欲を受け止め、また配慮している</p>
	2	<p>子どもが日常的に歌をうたう機会が設けられているか 【評価基準】A. 日常的に機会を設けている。</p>
	3	<p>身体を使った様々な表現あそびが取り入れられているか 【評価基準】A. 十分取り入れている。</p>
	4	<p>子どもが幼稚園生活の中で様々な音、色、形、手触り、動き等に気付いたり、楽しんだりできるように工夫されているか 【評価の観点】子どもの興味関心を引き出すような音楽や楽器を保育に取り入れている。子どもに刺激となるさまざまな素材や保育教材が準備されている。 【評価基準】A～B. 工夫また配慮している</p>

J. 安全・衛生・危機管理

安全・衛生・危機管理	1	<p>室内や園庭の安全に対して、定期的に点検・改善を行っているか。 【評価の観点】遊具・設備備品・保育室内・園庭等戸外・建物共有空間などに関する安全点検チェックリストや対応マニュアルを作成し運用している。事故や怪我の報告書などがあり、それをもとに再発防止に努めている。 【評価基準】A. 日々の点検や定期的な点検改善を行っている。</p>
	2	<p>緊急事態に対して敏速に対応できるようにしているか 【評価の観点】緊急時行動に関するマニュアルを作成し、職員に周知徹底、理解把握している。通報先（警察等外部）にすぐに連絡ができるようにしている。職員への連絡連携が取れる体制になっている。非常ブザーや防御スプレーなどがあり、すぐに使えるようにしている。消火器の位置を把握し、使い方を理解している。 【評価基準】A. 敏速に対応できるように体制を執っている。</p>
	3	<p>薬品の取り扱いに十分配慮しているか 【評価の観点】薬を飲ませる場合は保護者の依頼を受けている（与薬届）救急箱の置き場所・配置に配慮している。子どものアレルギー疾患などを把握していて、他の教員にも周知されている 【評価基準】A. 十分配慮している。</p>

J . 安全・衛生・危機管理

安全・衛生・危機管理	4	飲食物の保管は低温・低湿度の場所で行っているか、また保管場所に外部の侵入者が入れないようにするなどの配慮をしているか 【評価基準】A . 配慮している。
	5	園庭は常に整備されていて、室内は清潔で整理整頓が行き届いているか 【評価の観点】園庭、遊具や玩具が使いやすいように工夫されている。【評価基準】A . 常に清潔・安全に注意し整理整頓している。
	6	常に園児の安全に気を配っていたか。通園バスの進入の際や遊具の活用の際。その他の活動全般 【評価の観点】園児の日常的な中でも特に「活動直前」等は配慮している。 【評価基準】A . 常に十分配慮している。

園長・主任 自己評価 (一部の項目は重複する場合があるが自己評価者が園長・主任となる)

K . 教育内容 [教育課程・研修]

教育内容 (教育課程・研修)	1	各学年の指導計画が、園児の実体に即したものになっているか把握し、定期的に話し合い、園長・主任が指導助言できる体制がある。 < 評価基準 > A . その教務体制があり実践している。
	2	個々の子どもの状況について話し合う会議等が定期的かつ必要に応じて開ける体制がある < 評価基準 > A . 定期的に行う会議を含め、必要に応じて開ける体制があり、園長・主任が教員からの意見を定期的に聞き、保育内容や運営の改善に生かしている。
	3	園の教育理念や教育方針が明文化され、教員会議等、機会あるごとに教職員に周知するための取り組みを行っている。 < 評価基準 > A . 園の教育理念や教育方針が明文化され、教員会議等で話をしたり、文書にして配付するなど、教職員に周知するための取り組みを行っている。
	4	教職員が自分の課題を把握しその課題を達成できるような指導体制をとっている < 評価基準 > A . 教員が自分の課題を把握できるように自己評価や相互評価をできる機会を確保し、課題を達成できるよう、園長・主任が指導（援助）できる体制をとっている。
	5	園内研修などを企画し、研修の内容を自園の教育理念に沿った形で日々の保育に生かせるようにしている。 < 評価基準 > A . 教員の意見を取り入れながら、園内研修・研究保育を企画し研修の内容を自園の教育理念に沿った形で日々の保育に生かせるようにしている

K . 教育内容 [環境構成・行事等]

教育内容 (環境構成・行事)	1	子どもが様々な活動や体験をするのに適切な環境が整備されている <評価の観点> 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。子どもが友達と関わって活動を展開するのに必要な遊具や用具、素材が用意されている。身近な自然や社会と関わられるような配慮がされている。子どもが自発的に活動できる環境が整備している。 <評価基準> A . 子どもが様々な活動や体験をするのに適切な環境を整備している。
	2	個々の行事について、子どもの成長を第一に考えながら実践し、子どもの実態、ねらい等について教職員と十分に話し合っている。 <評価基準> A . 個々の行事についてねらい等について十分に話し合っている。
	3	保護者の意見も取り入れながら、行事の見直しを行っている <評価基準> A . 行事の後にアンケートを取るなど保護者からの意見も取り入れ見直しを行っている。
	4	個々の行事についての意図や子どもの育ちを感じてもらおう観点を保護者に伝え、理解を得ている。 <評価基準> A . 観点を保護者に伝えるために文書や言葉で伝え、理解を得るようにしている。
	5	担任と協力し、園長・主任が担任とは違う立場で子どもと直接関わる機会を設けている。 <評価基準> A . 保育の中身(流れ)をよく理解し担任と協力して、行事や日々の保育で子どもたちと十分に直接関わり、子どもの育ち・実態を理解している。

L . 保護者支援

保護者支援	1	園と連携を図るため保護者会などの支援組織と連携を執っている(父母会) A .
	2	保護者に教育や子育てに関する情報を提供し、啓発に努めている <評価基準> A . ホームページや文書により、情報提供し啓発に努めている。
	3	発達・育児について、保護者との共通理解を図るための機会を設けている。また子どもの様子や保護者からの依頼、対応など、教員で共通理解を図る体制がある <評価の観点> 日々の保育や懇談会等に知り得た子どもの様子や保護者からの依頼・意見に対し、対応する体制を執っている。また教員間で共通理解を図り、教員会議などにおいて情報を共有し、対応策を考えている。 <評価基準> A . 懇談会に加え、保育参観など保護者も一緒に参加できる行事を行ない、発達・育児について共通理解を図る機会を設けている。保護者の依頼についても教員で共通理解を図っている。
	4	保護者からの意見や質問、相談は速やかに聞き、返答している <評価基準> A . 教員が自分勝手な判断で返事せず、園長・主任に相談し把握した上で、返答している。
	5	保育中のけがや病気は、すみやかに保護者へ連絡を入れ、状況や原因を説明の上通院するなどの対処法がととのっている <評価基準> A . 適切に対応・対処している。マニュアルの有無にかかわらず、全教職員に周知徹底されている
	6	預かり保育や長期休暇中の保育を実施し、家庭や育児の補完をしている <評価基準> A . 輪番で教師が担当し、子どもの心身の状態や、通常保育との関連、保育人数を配慮しながら、預かり保育や長期休暇中の保育を実施している。

M. 地域連携

地域 連携	1	子育てや教育に関する理解や協力が得られるよう地域や学校と連携活動を行っている【評価の基準】 園舎・園庭、空き教室等を開放し、地域や園に通う親子が交流し、子育てや教育に理解や協力が得られる活動を行っている。園での子育てや教育に関する情報提供をしている。 A～B ．取り組んでいる
	2	地域・保護者の意見を聞き、保育ニーズを把握し事業に反映させている【評価の基準】 会議やアンケート等により保育ニーズを把握する取り組みを行い事業に反映させている。 A～B ．

N. 財務管理 [決算・予算]

財 務 管 理	1	予算作成について、基準があり、園の方針や特色を反映している。また決算内容について今後の改善点も含め十分に把握できている。【評価基準】A ．決算書について説明ができ、今後の改善点を明示できる。
	2	3～5年後の園の姿を想定できる中期的な財務計画を持っているか【評価の観点】 5年先までの予算を作成している。またそれに見合う経営方針・経営戦略を持っている。 【評価基準】A ．中期的財務計画がある [平成20年度内に5ヶ年計画策定]
	3	予算・実績を管理し、必要に応じて予算の改訂を実施している【評価の観点】 予算実績を管理し進捗状況を説明できる。社会情勢や環境の変化に対応して人材や設備を投入できるよう予算改訂の位置づけがある。 【評価基準】A ．出来ている
	4	決算書の公開は実施しているか【評価の基準】 第三者も含め広く公開している。公開している計算書類 資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表・財産目録

O. 安全管理 (教員自己評価と重複する項目あり)

安全 管理 (施設・ 衛生)	1	外部侵入者・来訪者等に対する安全対策が出来ているか <評価の観点> 出入口等でのチェック体制(監視カメラ等)が整えられている。教員に電子笛を携帯させる等の対策を講じている。緊急対応マニュアルがあり、教職員に周知徹底している。 <評価基準>A. 対策を十分に講じ、教職員にも危機意識を共有化している
	2	施設・設備に対する安全対策が出来ているか <評価の観点> 施設・設備が園児の活動・安全に配慮した配置になっている。消防(定期点検・消防計画・避難訓練・防火管理者)に関する安全対策が出来ている。施設・設備の安全点検管理票があり教職員に周知徹底し、定期的にチェック・補修等を行っている。<評価基準>A. 施設・設備の状況を把握し、適切な補修・改善等を実施している
	3	衛生に対する安全管理が出来ているか <評価の観点> 厨房の衛生管理に配慮し、給食日誌等を備え、給食については「検体」を執っている。園庭・園舎(遊具・砂場・トイレ)のチェック体制が出来ている(記録・定期検査)園児の健康診断を実施している(台帳がある)感染症等について教職員が共通の認識を持っている。保護者に対して手紙を配付するなどして園児の衛生管理を啓発している <評価基準>A. 衛生に対する管理体制が執り、教職員にも意識・徹底している

0. 安全管理

安全管理	4	<p>園児に対する安全管理が出来ているか</p> <p><評価の観点> 一年を通してケガや事故の起こりやすい時期・場所を教員が把握し、事故防止に努めている。ケガをした場合のマニュアル(病院搬送・保護者への対応等)がある。ケガや事故の報告書を作成し、再発防止に生かしている。薬を飲ませる場合のマニュアル(与薬届)がある。日本体育・学校健康センターに加入している</p> <p><評価基準> A～B。教職員全員が園児の安全確保に配慮し、事故防止に努めているが残念なことに若干名の園児が怪我を負うこととなった。</p>
------	---	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

P. 人事管理

人事管理(その他)	1	<p>教職員の健康管理を行い、積極的に保育に取り組める様になっている。</p> <p>【評価の観点】 定期健康診断を実施している。健康管理の指導をしている。【評価基準】 A。十分出来ている。</p>
	2	<p>定期的にかつ必要に応じて会議や研修会・ミーティング等を実施して、園長・主任と教職員とのコミュニケーションをとっているか。</p> <p>【評価基準】 A。園の方針・教育界の動向等を伝えるための会議や研修会を実施し、また教職員の意見を聞くための個人面談・グループ面談等を行っている。</p>
	3	<p>教職員の資質を向上させるような取り組みをしている。</p> <p>【評価の観点】 信頼される人として、良識やマナーについて確認する機会を実施している。教員各々その経験や実力に応じた仕事ができるよう指導したり、環境を整えたりしている。【評価基準】 A～B。ほぼ出来ているが十分でない点もある。</p>

A	十分、達成されている
B	達成されている
C	取りこんでいるが成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

A・B・C・Dの4段階「自己評価」

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

総合的な評価は「AまたはA～B」と教員全員が共通認識した。但し、本園職員(教諭)経験年数により、その共通意識の若干の意識差はみられることとなった。これは教諭経験を積み重ねることにより、意識差は解消されるものとみなし総合的判断を妥当なものとした。

年度当初(2009年度)に全教職員が取りくむべき目標について、共通理解し指標とした。そして、教員それぞれが、学期末また日常的に自己評価を行い、取り組み状況を意識・確認したことにより、本園の教育方針・教育内容がより推進され、教員の資質向上につながった。今後も継続して自己評価を行うことが重要であることを教員一同が共通理解し努力する姿勢を位置づけた。

5. 今後取り組むべき課題

各項目のより達成度を高めるよう、今後（2010年度）において具体的な対応やその具現化に向けて努力することを第一の課題とした。また、それぞれの領域（各項目）の連携的な指導・援助が重要であり、特に「人間関係」「異年齢児活動」を重点的課題とすることを共通認識した。幼稚園教育の本意とする「子育て支援・援助・指導」は、もちろんのこと併せて社会的状況を鑑み「子育て支援」の両面から、幼児の教育的環境を調える事を重点課題とした。

その人間関係の中で「協同性＝友だち（子ども同士）と話し合う中でのトラブルや意見の違いを乗り越える力、さらに友だち（子ども）同士の活動や取り組みの中でのそれぞれの思いに気づく環境や指導と援助のあり方を真摯に見直し、それを見守る教員の姿勢、指導力と援助法並びに継続して取りくめる環境、家庭との連携の在り方について努力研鑽に励むことを課題とした。

さらに、昨年（平成20年度）の新教育要領の改編により、それに基づいた指導計画の作成のために、現在までのものに修正または訂正、加筆を加え、本園教育課程・指導計画としていたが、今後は上記の内容を含め十分に幼稚園をとりまく環境や子どもの実態に即した指導計画の編纂に取りくむことを課題とした。

6. 学校関係者の評価

学校関係者当該年度父母会役員並びに次年度父母会役員に自己評価を公開し、意見を求めたところ（平成22年3月2日・14名）特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められた。尚、その意見の主な内容を下記に記す。

1. 子ども達の個々の記録があり、それについて話し合いが成されている事を知り感動し、安心して子どもを預けられると感じた。
2. 項目A-4 [教育計画・指導計画] について共感した。担任教諭だけでなく幼稚園の全教員が情報を共有していることは保護者にとって心強く感じた。
3. 項目H-1、H-2 [家庭との連携]、O-4 [安全管理] の評価については率直な評価だと思う
4. とても細かく評価されており、幼稚園の目標が分かりやすく評価できる。
5. 具体的にとても分かりやすく評価されていてとても良いことだと思う。子どもを安心して預けることができる幼稚園だと思う。
6. 青葉幼稚園らしさが、文章にあらわされており内容も理解しやすい。
7. 多くの項目について、それぞれ熱心に取り組まれていることがわかった。評価に関しても記されている通りと思う。伸び伸びとした保育の中で職員方には多くの注意を払いながら指導戴いていることに感謝している。
8. 園の取り組みの様子がわかる貴重な情報だと思う。父親の立場からすると、園の様子などは家内か子どもから聞くことが大部分ですので、こういった形で開示をして頂けると、直接に理解をでき、大変ありがたいと思う。今後とも本取り組みを是非継続して頂きたいと思う。

9. 全体的に妥当な自己評価であると思う。根拠もしっかりしていて高い自己評価に安心して子どもをお願いできると感じる。
10. 項目 A - 3 [教育計画・指導計画] どんなに熟考した指導計画であっても定期的なチェックがないと計画通りには進まない点より、ほぼ毎日、評価・反省・見直しをされていることは素晴らしいと思う。
11. 項目 H - 1 [家庭との連携] 些細なことでも家庭へ説明・連絡していただき安心して子どもを任せられると思う。高評価は妥当である。

7. 財務状況

平成21年度財務状況は、学籍151名となり、平成20年度対比学籍12名の園児数増となったものの定員対比では249名の減少。少子化による財務状況は、厳しいものとなった。尚、平成22年度は171名の学籍見込となり、定員対比では、229名の減少、前年度実員対比は、20名の増となり若干の財務状況の好機がうかがえる状況となった。

平成21年度の財務状況については、監査法人・公認会計士より適正に運営されていると認められた。

**2009年度 / 平成21年度 くずは青葉幼稚園における
学校評価について 以上の通り公開します。**

2010年4月3日

学校法人山口学園

くずは青葉幼稚園

園長 **山口尚志** **公印**